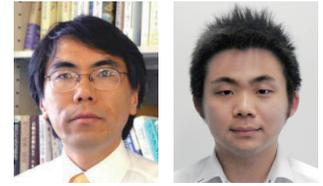


マリーナにおける車椅子使用時の 安全性確保に関する取り組み



沿岸海洋・防災研究部 沿岸域システム研究室 室長 上島 顕司 研究員 藤田 淳

(キーワード) バリアフリー、ユニバーサルデザイン、マリーナ

1. はじめに

我が国の海洋性レクリエーションの振興に向けて、マリーナ等におけるバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入促進は重要な課題である。民間では、障害者等が行うセーリング活動の支援や設備環境の改善に関する研究開発等を行うNPO法人が、障害者が安全かつ快適にマリーナ施設を利用できる設備基準を定めた「マリーナ障害者用設備指針」を平成10年に発行している。この指針によって作られた施設を写真-1に示す。その後、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催等に向けて、高齢者や障害者の社会参加への関心や意欲が高まっていることから、この指針を改定・拡充することとなった。国土交通省港湾局及び国総研沿岸域システム研究室は、こうした取り組みが海洋性レクリエーションを振興するうえで重要な意義を有していることから、検討に参画・協力することになった。



写真-1 バリアフリー対応のポンツーン（蒲郡港）

2. 車椅子使用時のマリーナの安全性を確認する実証実験の実施

検討にあたっては、全国で初めての取り組みとなる、車椅子使用時のマリーナ施設の安全性を確認するための実証実験を行うこととなった。

まず、事前の図面収集・分析、斜路等の簡易測量を行ったうえ、潮位等から実験を行う時期・時間等について検討した。

平成29年6月12日に神奈川県湘南港で実証実験を実施し、護岸天端からポンツーン（浮き桟橋）への連絡橋の勾配と使用性の関係などについて把握した（写真-2）。その結果、連絡橋については、潮位によっては車椅子単独で昇降することが困難な勾配となること、通常のユニバーサルデザインの基準である1/12勾配であっても1人での昇降は危険や困難があり、手すりやすべりにくい材質を用いた床面の対処設置が必要となること等が明らかになった。

今後、この結果の指針や技術基準への位置づけなどを検討していくこととなっている。



写真-2 実証実験（湘南港）

詳細情報

プレス発表資料

<http://www.y.sk.nilim.go.jp/oshirase/press-release20161221-01.pdf>

<http://www.y.sk.nilim.go.jp/oshirase/press-release20170607-01.pdf>